

新春初出式 報告

今年の新春初出式は、1月7日(木)、五節句の一つ人日(じんじつ)、七草粥の日となりました。

この日を待ちかねたかのように、定刻1時間以上前から顔を出される方も多数おられ、総勢70名以上の方の参加を得ました。

あちらこちらで新春を寿ぐ賀詞の声が聞こえ、ならやまは新年を迎えた高揚感に包まれました。

藤田会長より今年は当会設立15周年を迎え



種々行事が企画されている事が伝えられ、今年も明るく、元気にこの1年を送りましょうとの力強い挨拶がなされました。

その後、各グループの仕事始めの活動と並行し恒例の餅つき行事が執り行われました。

今年、年男・年女を迎える会員の方々を中心に黒米を添えた2色餅を搗いて頂き、搗き上がった4臼のお餅は、きな粉餅、おろし餅、焼き餅でいただきました。



待ちかねた会員は長い列を作り、何回も並ぶ人、遂には一人で10個近くを食したツワモノまで出現、大好評でした。

勿論、ならやまで採れた春の七草を使っての七草粥も振る舞われ、可愛い竹のお猪口で頂く、お神酒も振る舞われました。

それでも、昼からはそれぞれのグループに別れ今年の仕事始め、定刻の3時まで全員元気に活動に勤しみ、元気が何よりを体感する会員の皆様の満足そうな笑顔が溢れました。

会員の皆様、今年も宜しく願い致します！！

(事務局：辻本信一)

佐保台小ファーム 元気っ子たちの声！！

里山の水田復活と同じくして始まった、佐保台小5年生の水稲栽培体験学習は、7年目を迎えた。6月4日の田植えに始まり、10月22日の稲刈り、11月5日の脱穀・粃摺りまでの5ヶ月間、子どもたちにとっては、初体験の連続であった。その間の子どもの表情から、栽培に関わる多くの人達への感謝の気持ちが伝わってきた。

子ども達からの感想文を集約すると、

- ◆稲束をコンバインに入れる時、揃えて入れないと上手くいかない。難しかった。
- ◆自然の香りが漂う中で、良い体験ができて嬉しかった。
- ◆家族みんなで紫黒米ご飯を美味しくいただきました。
- ◆お米を作るのにはこんなに苦労することを実際にやってみて解りました。
- ◆体験学習を通して、奈良・人と自然の会の皆さんたちは、笑顔を欠かさない皆さんたちだと思いました。
- ◆稲刈りの時の音が心地よく感じました。また、稲掛けの作業が楽しかったです。
- ◆紫黒米のご飯は、プチプチしていて、とても美味しかったです。
- ◆お母さんに稲刈りのことを話したら、「いい体験ができたね。」と言ってくれました。
- ◆田植えの時、ものすごく上手に教えてくださったので、均等に植えることができました。
- ◆貰ったお米を見た時、自分たちも頑張ったお米が、こんなに大きくなったのに感動しました。
- ◆一番楽しかったのは、稲刈りでした。「ザクッ」という感じが気持ち良かったからです。
- ◆一番難しかったのは、田植えでした。田んぼの中を歩くのに泥が靴に絡みつくからです。
- ◆体験をさせていただきありがとうございました。こんなに難しいのに、やりやすいようにコツを教えていただき感謝しています。

※座学だけでは学ぶことのできない多くのことを体得してくれたようだ。(鈴木末一)